

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務 経験
日本国憲法 (教職関連科目 必 高等学校 情報)	共通	1年生・後期	2単位	選択	城下 健太郎	
履修の前提条件		前期の法学を履修済みであることが望ましい。また、日本社会に関心をもっていること。				
授業概要 (Course Outline)						
めまぐるしく発展する現代社会の中で生きてきた憲法のさまざまな論点を理解することを通じて、憲法の基本的な知識としくみについて解説します。この講義では、特に日本国憲法において実際の社会で生じた具体的な事件に焦点を当てながら皆さん自身の立場や価値観を見つめなおす機会にしたいと思います。なお、教職課程を目指す受講者には、教育者として学生のもつ人権に配慮することの意味と役割について理解することができるようになることを求めます。						
授業を通して修得できる力 (Competency Goals)						
知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture					
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature					○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening					
	数量的スキル Mathematics					
	情報リテラシー Information Literacy					
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking					
	問題解決力 Problem Solving					
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy					
	自己管理能力 Self-management					
	チームワーク Teamwork					
	リーダーシップ Leadership					
	倫理観 Ethical Sense					○
	市民としての社会的責任 Social Responsibility					○
	生涯学習力 Lifelong Learning					
到達目標 (Objectives)						
以下の3点を授業の目標とします。 ①日本国憲法の基礎知識・用語法を習得し、説明できること ②日本国憲法をめぐる生じた争いや具体的な事件の背後にある立場や考え方の違いを説明できること ③日本国憲法の学説や判例の立場の違いを理解したうえで自分自身の立場を明確にしなが説明できること						
事前学習の内容	教科書の指定箇所を読んでおき、わからない単語や文章に線を引いておくこと					
事後学習の内容	配布資料を見直して、提示してある小レポート課題に繰り返し取り組む。					
能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)						
毎回、講義においてかなりの文章量を小レポートとして書くように求めます。日本国憲法の裁判例では意見や立場の違いから争いがしばしば生じますが、受講生には自分としてはどちらが正しいのかを主張してもらい、その主張に対する理由づけをしてもらうつもりです。このことには受講生の能動的な参加が不可欠です。積極的に取り組んでください。						
教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)						
非常勤のため、講義の開始前後を使って質問などは受け付けます。時間がない場合などはコメントカードを通じて質問の受付を行う予定です。						
その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について						
講義は板書を用いて行いますので、初回からノートを必ず持参してください。 また、初回のガイダンスにおいて教員作成の毎回の学習確認のチェックリストを配布します。そこに毎回の予習・復習の範囲を書いていますので、必ず初回のガイダンスには出席してください。 ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。						

授業計画 (Course Schedule)			
テーマ Theme			
第1回	ガイダンス(憲法と法律のちがひ)		
第2回	立憲主義とは何か		
第3回	日本国憲法の成立史		
第4回	国民主権と天皇制		
第5回	平和主義		
第6回	基本的人権総論①(私人間効力の問題、三菱樹脂事件)		
第7回	基本的人権総論②(公共の福祉、二重の基準論)		
第8回	幸福追求権(プライバシー権、医療や校則における自己決定権)		
第9回	法の下での平等		
第10回	精神的自由権①(思想・良心の自由、信教の自由)		
第11回	精神的自由権②(表現の自由)		
第12回	経済的自由権		
第13回	社会権(生存権と教育を受ける権利)		
第14回	人身の自由		
第15回	まとめ		
第16回	定期試験など		
教科書 (Textbooks)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
目で見える憲法 【第5版】	初宿正典ほか	有斐閣	978-4-641-22735-4
参考文献 (Reference Books)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
別途、配布資料にて紹介します。			
成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)			
定期試験(授業内容15回分に関して到達目標①と②の観点から出題)…70% 毎回の小レポート(到達目標③の観点から出題、1回2点×15回)…30%			